

大中之湖干拓堤防、小中之湖干拓堤防 現況堤防高に関する整理資料

平成26年2月

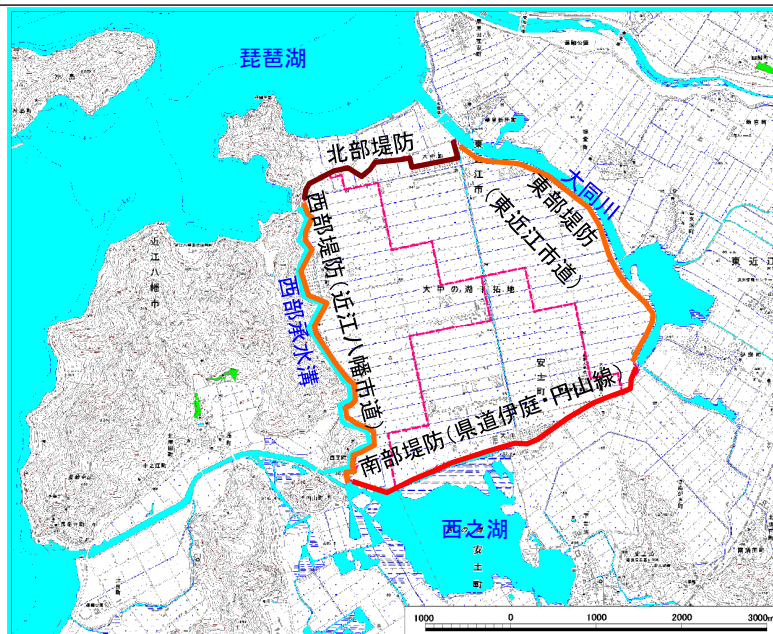
滋賀県 農政水産部 耕地課

滋賀県 土木交通部 流域治水政策室

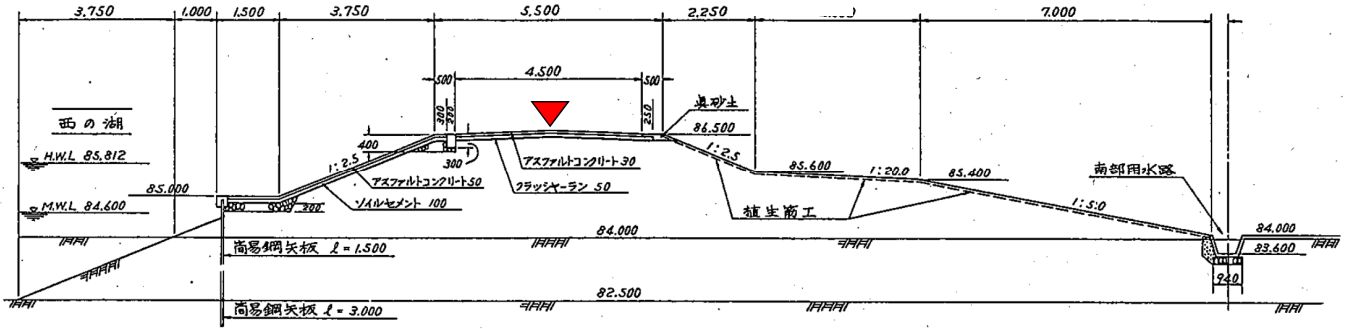
1. 大中の湖干拓堤防位置図、干拓事業のあらまし

2

- 大中の湖地区は、緊急食料増産計画に基づき、大型機械の利用を可能とした大規模営農形態による農業生産性の向上を目的に、昭和21年から農林省が直轄事業として着手し、昭和32年より干拓建設事業に着工し昭和43年に完了した。
- 干拓地は周囲を堤防が、さらにその周囲を承水溝が取り巻く形となっており、承水溝は背後地からの流出水の排除（地区外排水）およびかんがい用水源として重要な機能を有している。
- 地区外排水については、当時の愛知川雨量観測所の記録を用い、1/10確率雨量を計画基準雨量として、計画した流出水を承水溝により遮断し、琵琶湖へ放水し、背後地の洪水が干拓地に入ることのないよう配慮されている。
- 地区内は、琵琶湖の平常水位よりも低いため、浸透水、および過去の3日間連続雨量を3日間で排除する計画で、新田排水機により常時琵琶湖へ排出されている。
- 干拓地周囲の堤防は、東部堤防（大同川沿）、南部堤防（西之湖沿）、西部堤防（西部承水溝沿）、北部堤防（湖岸堤）に分かれており、サンドポンプなどにより人工的に所定の高さに築堤された。（天端高：東部87.0、南部86.50、西部86.0、北部86.30）
- なお、今回協議の対象となっている南部堤防は、干拓地と周辺地域を結ぶ主要道路として、道路法に基づく県道認定され（県道伊庭円山線）県が管理している。

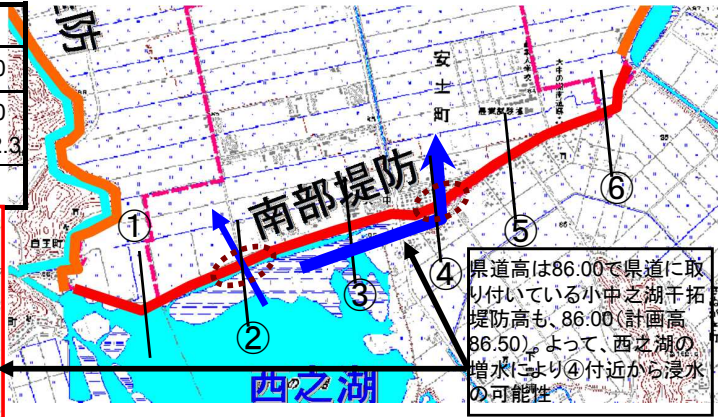


●大中之湖干拓堤防 南部堤防(及び小中之湖干拓堤防の一部)の現状

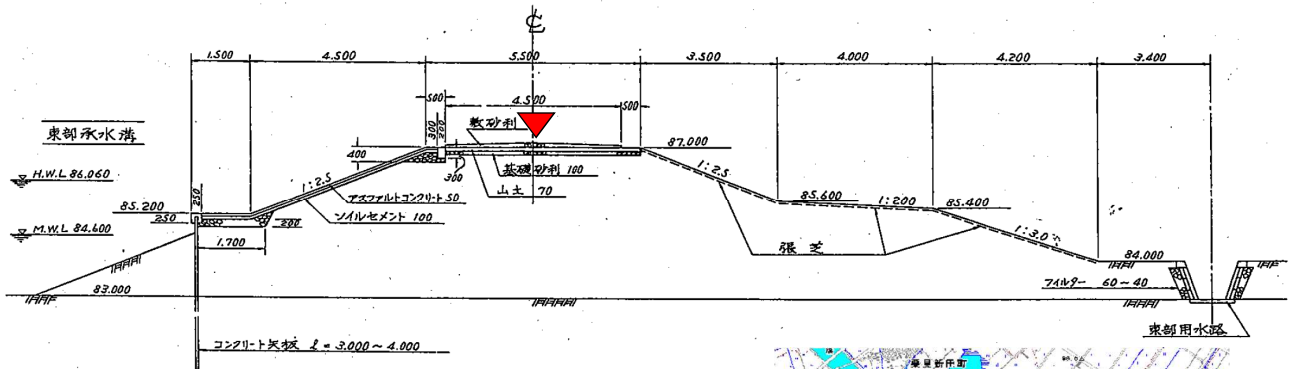


断面	①	②	③	④	⑤	⑥
計画高	86.50	86.50	86.50	86.50	86.50	86.50
現状	86.40	86.30	86.45	86.00	86.70	86.70
	BSL+2.0	BSL+1.9	BSL+2.0	BSL+1.6	BSL+2.3	BSL+2.3
沈下量	10cm	20cm	5cm	50cm	-	-

断面④では、琵琶湖水位がBSL+1.6を上回ると大中の湖地区の浸水の可能性がある。琵琶湖水位がBSL+1.9に達すると②からも浸水。①から④の区間で計画高まで回復が必要。



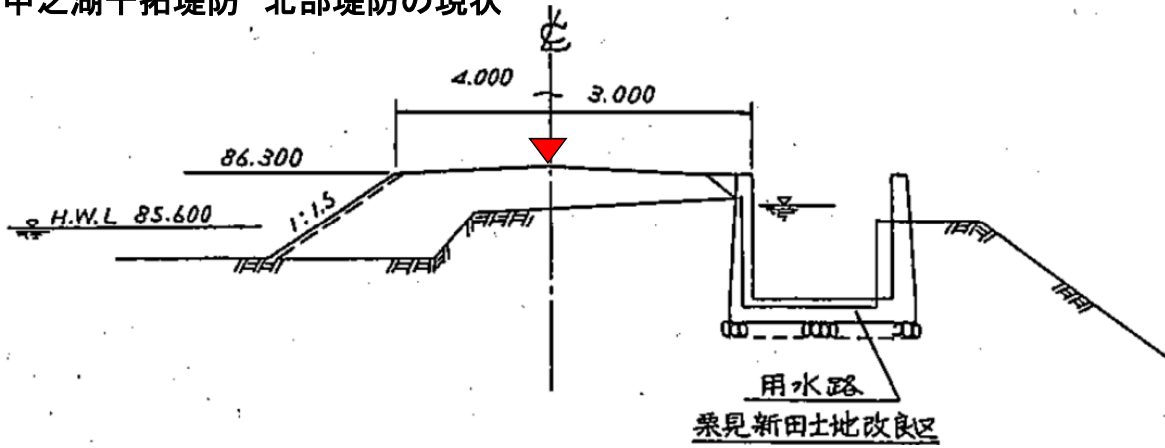
●大中之湖干拓堤防 東部堤防の現状



断面NO	①	②	③	④	⑤	⑥
計画高	87.00	87.00	87.00	87.00	87.00	87.00
現状	86.95	86.95	87.00	86.95	86.95	87.00
沈下量	5cm	5cm	-	5cm	5cm	-



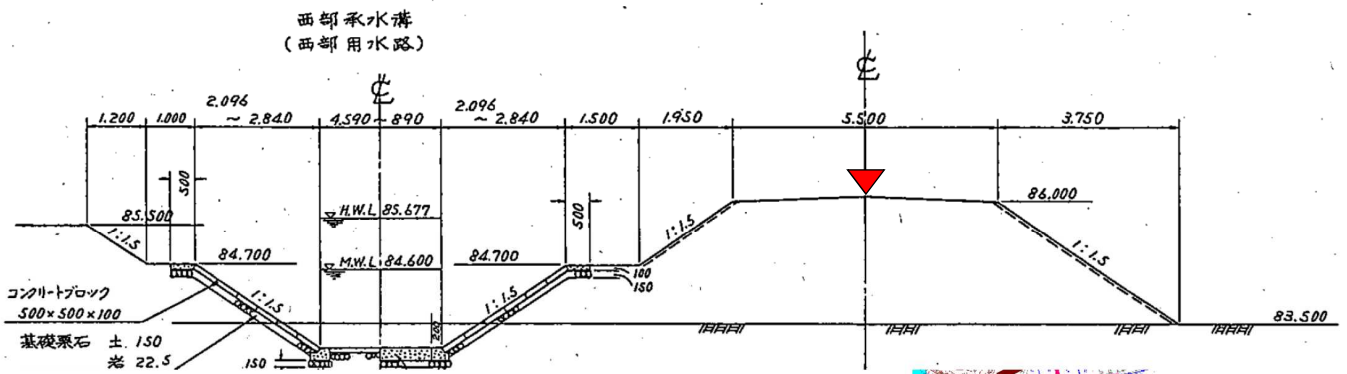
●大中之湖干拓堤防 北部堤防の現状



断面NO	①	②	③	④
計画高	86.30	86.30	86.30	86.30
現状	86.40	86.33	86.25	86.38
沈下量	—	—	5cm	—



●大中之湖干拓堤防 西部堤防の現状



断面NO	①	②	③
計画高	86.00	86.00	86.00
現状	86.10	86.10	86.00
沈下量	—	—	—

